



発行 昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院
発行責任者 昭和大学病院長 有賀 徹
編集責任者 広報委員長 河村 満
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8
TEL: 03-3784-8000 (代表)

昭和大学病院のホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUH/>

昭和大学病院附属東病院のホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHE/>

新年のご挨拶

昭和大学病院附属東病院 病院長 河村 満

将来の夢は将棋名人、という小学1年生の孫(R君)を将棋教室に引率した。90分間の個人レッスンであった。先生はたぶん50歳代。やや太めの男性で、ブルージーンズにチェックのシャツ。低学年担当教師風の顔貌で、全体として柔らかな雰囲気であった。「勝負師」という雰囲気はなく、レッスンプロというのはこのような感じなのだ、と納得した。

R君は駒の並べ方は良く知っていて、それに関する指導はなし。駒の成り方の概念もほぼOKなので短時間で終わった。しかし、すぐに左手を出すので、テーブルの下で左手を握られ続けていた。そういえば、将棋の駒を左手で持つ・打つことはない、必ず右手だ、ということに改めて気付いた。「王」または「玉」をとればそれで勝負は終わり、というルールがいまひとつ理解できていない。決着をつけるチャンスなのに、「歩」や「銀」を嬉しそうに捕ってコレクションする。また、詰めの際に、「飛車」「角」などの遠距離飛行可能な駒の使用法を理解していない。その一方で、一直線に向かう「香車」は割にうまく使うし、大好きな駒らしい。

最後に大きな声で「ありがとうございました」と、皆で頭を下げ挨拶して、終了。私にとっても何か不思議な充実感のある、あっという間の90分間であった。

2015年4月、「将棋脳」仕組み解明、という記

事が新聞各紙に掲載された。これは理化学研究所に勤務する友人、脳研究者の田中啓治チームリーダーらの研究成果である。将棋のアマチュア三、四段の男性17人に、対局の中盤画面を4秒間見せ、「攻めるべきか、守るべきか」を2秒間で直観的に答えてもらう。その間の脳活動を計測すると、大脳の内側部にある「帯状回」と、前方の「前頭前野」が活動していた。特に、「攻めるべきだ」と感じた時は後部の帯状回が、「守るべきだ」と感じた時は前部の帯状回の活動がより強まっていた。

この研究結果は、ネイチャー・ニューロサイエンス誌に掲載され、現在では、広く「直観」機能が脳内側部にあることを示唆していると解釈されている。

果たしてR君がすでに「将棋脳」を持っているかどうかは疑問である。勿論、学習過程の脳であろう。これらについては、お正月に彼と勝負する時に観察し、考察したい。

私は、神経内科医である。しかし、脳科学者でもある。今年の夢は、日常生活の中に普通にあること(特に「時間」)について、社会のためになる脳科学的な大発見をすることだ。



キャンドルサービス

平成 27 年 12 月 15 日(火)、昭和大学病院入院棟 3・4 階 小児医療センター、5～16 階病棟、中央棟 8・9 階にて看護専門学校学生によるキャンドルサービスが行われました。キャンドルを持ちながらクリスマスソングを歌い上げる学生の美しい歌声が病棟全体に響き渡り、一足早いクリスマスを迎えられました。



キャンドルを持ちながらクリスマスソングを歌う看護学生

キャンドルサービスの由来・・・

看護の母フローレンス・ナイチンゲールがクリミア戦争の際、ランプを手にベッドからベッドへ、傷を負った兵士を見回ったことに由来します。



文責：管理第一課

小児医療センタークリスマス会

平成 27 年 12 月 24 日(木)、昭和大学病院入院棟 3・4 階 小児医療センターにてクリスマス会を行いました。動物の形をしたバルーンを子供たちにプレゼントしたり、保育士が企画した「食べられるものか食べられないものか」を当てるゲームを行ったり、全員で「あわてんぼうのサンタクロース」を歌うなど、大盛り上がりでした。

最後には、サンタさんから子供たちへクリスマスプレゼントを贈り、大喜びのクリスマスイヴとなりました。



バルーンをプレゼント♪

食べられるものか食べられないものか当てるゲーム

子供たちへクリスマスプレゼント

文責：管理第一課

第13回がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（昭和大学病院）募集のご案内

研修会企画責任者 緩和医療科 教授 樋口 比登実

2007年がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画では、「平成29年6月までにすべてのがん診療に携わる医師が緩和ケアに関する研修を受講する」ことが求められています。

これを受け、昭和大学病院では年2回、厚生労働省の開催指針に沿った緩和ケア研修会を開催しております。この研修会を全日程修了すると厚生労働省承認の修了証が発行されます。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。



主 催：昭和大学病院

開 催 日：平成28年2月20日（土）13：30～19：35（受付13：00～）
平成28年2月21日（日） 9：00～18：00（受付 8：30～）
（実質的な研修時間：13時間5分）
※全日程への出席が必須となります。

開催場所：昭和大学病院 中央棟7階教育研修室・会議室

参 加 費：1,000円（2日目昼食代として）を2月21日（日）の受付時に徴収します。

対 象 者：がん診療に携わる医師、メディカルスタッフ 定員24名

内 容：講義、ワークショップ、ロールプレイ等
（がん性疼痛等の身体症状および精神症状に対する緩和ケア、コミュニケーション）

申込方法：gan-kyoten@ofc.showa-u.ac.jp ^ E-mail、
またはFAX：03-3784-8517までご連絡ください。

申込締切：平成28年1月8日（金）（定員に達し次第、締め切らせていただきます。）

※ご不明な点がございましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

昭和大学病院 管理第一課 03-3784-8515（担当：清水・渡邊・江守）



平成27年度昭和大学病院・附属東病院医療安全推進週間について

今年度の医療安全推進週間を平成27年11月25日（水）から12月1日（火）まで実施しました。

今年度の推進週間では「患者安全のために声を出そう」をテーマに、患者さん向けに「わかるまで聞こう話そう伝えよう」とメッセージを添えたポケットティッシュ、職員向けに「SBAR/Speak Up!」カードの配布を行い、医療安全の推進・啓発を行いました。また、院内各部署から医療安全に関する例年の「活動自慢」と新たに「安全標語」の掲示も行いました。

今後も様々な活動を通して、当院の医療安全の推進を図って参ります。



《ポケットティッシュ》



《安全自慢と標語の掲示の様子》

《「SBAR/Speak Up!」カード(表裏)》

※医療安全管理対策ポケットマニュアル P92 参照

SBAR (エスバー) 医療チーム間の簡潔・効果的報告

S : 状況 Situation	<p>患者に何が起きているか</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の所属、名前 部署と患者名 患者の症状、状態 何かどのくらい問題なのか？ (いつ起きたのか) <p>患者の情報がわかるものを手元に準備して報告する (診療録・経過記録など)</p>
B : 背景 Background	<p>患者の臨床的背景は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 入院時の診断名、入院後の経過 現在 (直近) のバイタルサイン、精神状況、皮膚の状態など 投与薬剤、アレルギー情報など その他、背景情報と思われるもの (手術・検査・処置後など)
A : 考察 Assessment	<p>問題に対する自分の考えは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題 (起きている事) に対する、自分の評価を伝える 不安なこと、可能性として心配なこと 何かしらの対応が必要かどうか
R : 提案 Recommendation	<p>問題に対する自分の提案は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> 処置、検査、移動など必要と思われることを提案する 問題の解決策を提示する やって欲しい事の要望を出す 何かしらの対応が必要であれば、対応を要請する

医療安全管理部門

Speak Up!
(声をだそう！)

気になります!

心配です!

不安です!

安全の問題です!

中断してください!

患者安全のために!

医療安全管理部門

『医療安全推進週間』とは

平成13年に開始された「患者の安全を守るための共同行動(PSA)」の一環として、医療機関や医療関係団体等における取組みの推進を図り、また、これらの取組みについて国民の理解や認識を深めていただくことを目的として、毎年11月25日(いい医療に向かってGO)を含む1週間を「医療安全推進週間」として設けています。行政機関、医療関係団体、医療機関、製造団体等においては、この週間を中心として、医療安全向上のため、シンポジウムの開催、研修の実施など様々な取組みを進めています。(厚生労働省ホームページから一部抜粋)

院内コンサート報告

平成 27 年 11 月 14 日（土）15 時から中央棟 1 階ロビーにて第 69 回院内コンサートを開催しました。昭和大学学生による若さあふれる演奏にエントランスはコンサートホールのように。管弦楽グループや吹奏楽グループに分かれ、ディズニーメロデーなど懐かしい曲が次々と演奏されたあと、ハンドベルの美しい響きで一足早いクリスマス気分を楽しみました。



奏者：昭和大学管弦楽団

演目：ディズニーメロデー

アナと雪の女王

見上げてごらん夜の星を

私のお気に入り

世界に一つだけの花

クリスマスメロデー等。



クリスマスメロデー演奏

参加者：90名

会場ボランティア：7名

職員：18名

♪参加された方々の声♪

- 初めての手術で気力も衰えていたのですが、曲を聴いたとたん不思議と涙がこぼれました。音楽はいいですね。これまで海外や国内で聴いたコンサートより感動を受けました。
- 毎回楽しみにしています。素晴らしい演奏でした。馴染みの曲も多く、周りの方も口ずさむ様子が何度も見られて温かい気持ちになりました。楽器の紹介があるととっても楽しめそう。
- どの演奏も素晴らしく、ひたすら感激！入院している患者さんには大きな心のクリスマスプレゼントですね。
- 病院がコンサートホールに！患者にとって笑顔になれる何よりの贈り物です。コンサートを支えていらっしゃる病院スタッフ、ボランティアの方々の理念に感激。これからもぜひ、続けてください。
- 聴きなれた曲が多く、なつかしかった。楽しい豊かなひとときを過ごせました。病に負けず頑張ります。



文責：管理第一課 ボランティア担当

一年にわたり診療録管理についてご紹介してきたこの連載も今回が最終回です。最後は診療記録の「監査」をテーマにその意義と昭和大学病院の取り組みについてお話しします。

まず診療記録における「監査」とは何かということになりますが、診療録管理においては一般的に「量的点検」、「質的点検」と言われるものがあります。「量的点検」は記録として落丁していないよう必須となる記録が綴られているか否かを点検するものです。一方「質的点検」は各診療記録に求められる内容が漏れなく記載されているか、さらには医学的根拠も視野に入れて点検するものであり、様々な視点や評価項目および基準等を設けて実施されます。これを「監査」と言い、診療記録の質的向上に努めています。

では昭和大学病院ではどのような監査が行われているのか、以下に具体的な質的監査の取り組みをご紹介します。

1) 院内巡視

病院長をはじめとして多職種で構成された監査チームを組み、毎週1回、2病棟のチェックを実施しています。チームメンバーはそれぞれの専門性を生かしたチェックを行い、私たち診療情報管理士は診療記録のチェックをします。主なチェック項目として、入院診療計画書は的確な記載内容となっているか、研修医の記載は指導医が確認してコメント記載などの指導を行っているか、初期記録の記載は充実しているか、経過記録はSOAP記載となっているか等をチェックします。結果はまとめて毎月の病院運営委員会で報告しています。

2) 患者死亡時の記録確認

毎週月曜日に前の週に受領した死亡患者の死亡診断書、入院診療録サマリー、患者死亡時確認チェックシート、入院診療記録をまとめて医療安全管理部門に提出をします。提出前に診療情報管理士の視点で記載内容のチェックを行い、記録の不備等がある場合は該当病棟に戻して再度整備を実施してから提出します。

3) 入院診療録サマリー監査

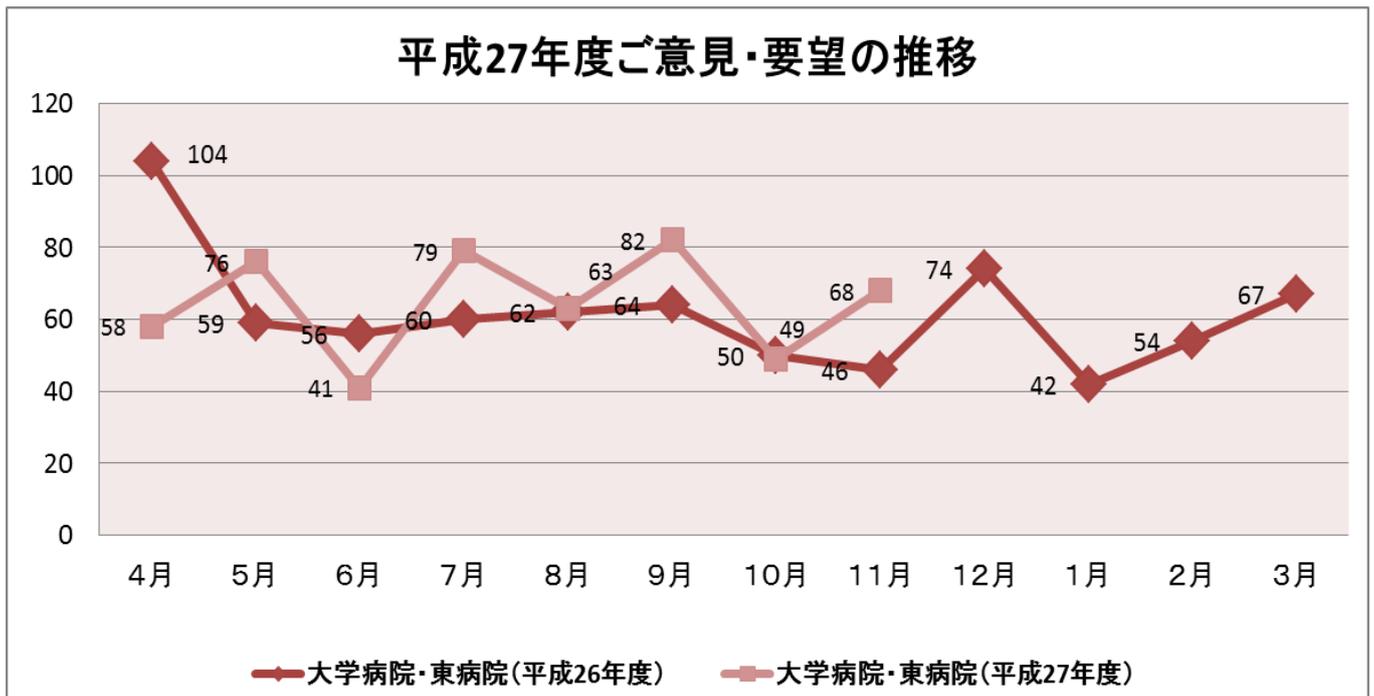
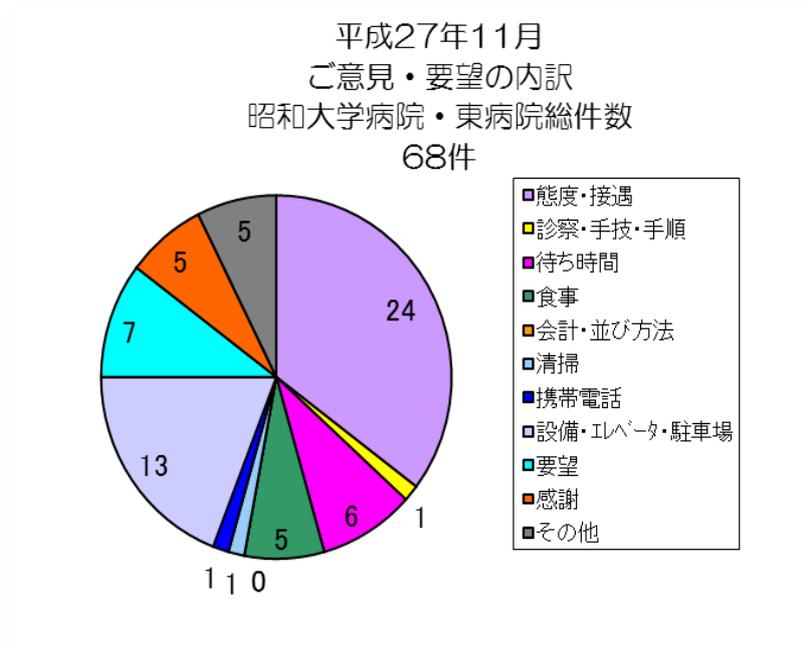
患者さんが退院すると医師はその一連の入院経過を要約した入院診療録サマリーを作成します。その内容は診療の継続性を視野に入れて、おおよそ一枚の用紙の中に必要な情報を集約してまとめられなければなりません。そのため当院では最終診断名から始まり、診断の根拠、入院の目的、入院中の経過、退院時の患者の状況など10項目にわたる監査項目を設け、入院診療録サマリーの記載内容を評価しています。評価した監査結果は診療録管理室運営委員会で報告され、その後各診療科にフィードバックされます。

以上、昭和大学病院における診療記録監査の取り組みをご紹介しました。診療記録は医師をはじめ医療者にとって大切なものであると同時に、患者さんにとっての大切な個人情報でもあります。そのためにも昭和大学病院診療録管理室では記録の「質」が担保できるよう「監査」を実施しつつ、日々の業務に勤しんでおります。



患者さんのご意見・要望

ご意見・要望	回 答	回答部 署
咳をしている人と同じ部屋にしないでください。個室に移す等の配慮をしてほしかったです。	全ての方を個室に移動することは不可能ですが、今後は状況に応じてその影響度を十分に把握、検討していきます。	看護部



各種お知らせ

・人権啓発講習会

日 時：平成 28 年 1 月 6 日（水）18：00～

場 所：入院棟地下 1 階臨床講堂

演 者：人事部人権啓発推進課 課長 山口 敦

テーマ：働きやすい職場を作るためにたいせつなこと

・平成 27 年度 第 7 回医療安全・感染対策講習会

日 時：平成 28 年 1 月 29 日（金）18：00～19：00

場 所：上條講堂

テーマ：感染対策／医療ガス／個人情報



編集後記

今年は、温暖化の影響からようやくスキー場に雪が積もり、スキーを楽しむ方々ににぎわい始めました。特にこの時期、雪を心待ちしていたスキーヤーや子どもたちにとっては、楽しさで心が高ぶることと思います。冬山にスキーを楽しむ方々が集まり、にぎやかな光景はまさしく冬の風物詩でもあります。

さて、この病院だよりも、新年を向かえ第 338 号となりました。毎月定期的に発行している病院だよりを楽しみにして頂いている方々も多くいるとお聞きしています。広報委員会では、今後も病院だよりの発行を心待ちして頂けるような広報にしたいと思っています。

皆様には、原稿等を依頼させていただきますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

佐藤 久弥

昭和大学病院・附属東病院の理念

- ・患者さん本位の医療
- ・高度医療の推進
- ・医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- ・患者さんが受診しやすい、患者さんのQOLを重視した、質の高い医療を提供する。
- ・地域医療機関との連携を推進し、特定機能病院としての医療を担う。
- ・教育病院としての機能を充実して卒前・卒後の研修・実習および生涯教育を通して、質の高い医療人の育成を行う。
- ・生命倫理を尊び、科学的根拠に基づいた高度な臨床研究を実施する。

ご意見・要望につきましては、メールアドレス：tayori@ofc.showa-u.ac.jpまでお願いいたします。

病院広報委員会委員： 荒川 千春、板橋 家頭夫、伊藤 亜紀子、門倉 光隆、河村 満、日下部 まり奈、
笹崎 玲香、佐藤 久弥、田代 ゆい、田中 克巳、二木 芳人、平野 勉、吉田 仁、
渡邊 聡（50 音順）